

# 光円寺報

2012年 6・7月  
〒679-2323 兵庫県神崎郡  
市川町甘地384  
後藤明照・由美子（惟蓮）  
Tel & fax 0790-26-0162  
Email kouenji\_dayo@nifty.com  
<http://Kouenji-hou.com/>  
通信費年間 1000円



## 声明

### 仏教徒宣言 (その100)

梅雨に入ってから良い天気が続いていましたが、台風4号によって各地に大雨や洪水の警報が出、市川が危険水域に達し心配しました。幸い光円寺周辺は無事でした。被害のあった方にお見舞い申し上げます。

自然が起す様々な現象は人間の思いを超え、作すすべを持たなかつた事を、思い知らされてきた歴史があるのに、私たちはすべ謙虚さを忘れます。そんな私たちにどうして、抱え切れない大きな問題として現わになったのが、福島原発の事故でした。あれから十五ヶ月が過ぎました。

被害の現状、事故の原因究明、現場の状況が、まだまだ明らかにはされていないし、未だに事故を起こした原発建屋内には人も入ることもできない中、野田首相は 大飯原発の再稼働に対して国民に理解を求める声明「を出しました。そしてその中で、国民の生活を守る。それが、この国論を二分している問題に対して私がよっ立つ、唯一絶対の判断の基軸であります。」と言い、再起動させないことにより、生活の安心が脅かされることにはならないと思います。国民の生活を守るための今回の判断に、何とぞご理解をいただきますようお願いを申し上げます。「と。そして大飯原発の3号機の再稼働を十六日に容認してしまいました。国民の生活を守る為に再稼働やむなしという立場の表明ですが、守るべき国民とは一体、誰のことを指しているのでしょうか？

全ての原発が停止した先月五日の子供の日以降、全国各地で原発の再稼働に対する反対の意思表示が、個人や集団で、デモや署名活動、投書、国や自治体、電力会社、関係各所への意見メールやファックスでの抗議が行われています。が、このような市民レベルの動きは大手マスコミの報道には載らず、又、小さいところのように報道され、正確に知ることができません。例えば、毎週金曜日、午後八時から八時まで、首相官邸前で「再稼働反対」の抗議に、一般市民一人ひとりが生の声で、自分の思いを直接、野田首相に伝えようと、各地から集まっています。再稼働を容認する前日の十五日には一万二千人が集まったが報道されず、その反動も加え一十二日には4万五千人の人が集まっていたそうです。又、作家の大江健

三郎さんらが呼びかけている「脱原発一〇〇〇万人署名」の一次集約（今現在）で七四八万筆以上が集まっています。一部のマスコミの報道はあつたようですが、大きく取り上げられていません。この署名も、一人ひとりが原発に頼らないで生きよう、再生可能なエネルギーへの転換へ、という意思表示です。そして、真宗大谷派も先日十一日の宗参両議会で宗務総長が、大飯原子力発電所再稼働に関する声明を読み上げ、政府に再稼働することのないよう求めました。これもネット上では、宗教団体の公式声明として評価・賛同を得ていますが、大手マスコミでは大きく報道しませんでした。それと、今回の原発事故で被害を受けた福島の人たちが刑事責任を問うという事で、告訴声明を出されています。

奇しくもこの時期たくさんの声明が出されました。この声明といふことは声を明らかにする。といふ事で、読み方は「せいめい」で意味は、公式の発表。或いは重大事を権威をもって宣言する事とあります。又仏教では「口よみよう」で、仏教の経文を朗唱する声楽の総称です。同じ字を持つ声明は、声は自分の言葉で喋ることであり、何を言いたいのか明らかにするといふ事でもあり、宣言なのだ。と改めて気づきました。個人であれ、公人であれ、自分の考えグループとしての意見、思い、願いを「声」に出して世間に宣言する表現が「声明」なのだ。又、声明は生命に通じます。声明とは生命をかけるものなのかもしれません。

私たち浄土真宗の門徒は、釈迦一代の経文の中で、七高僧、そして親鸞聖人によって、浄土を顕かにする真実の教は「天無量寿経」これなりと伝えられてきました。そのお経には、ある国王が、世自在王仏と出遇い王位を捨て修行者法蔵菩薩となつて、あらゆる衆生を救つにはどうすればいいかといふ課題をもつて永い間修行し考え抜き、四十八の願を建て、その願を成就するためにまた永い永い間修行して、その願を成就して浄土を建立し、阿弥陀仏になり、その手立てとして私たちに念仏を与えたといふ説かれます。念仏はその浄土の方向を向くと表明する「声明」なのです。その声明するところが「世」の私を穢し、凡夫とみきわめ、浄土に往生する約束なのです。

南無阿弥陀仏

釈明照

## 大飯原子力発電所再稼働に関する声明

真宗大谷派は、福島第一原子力発電所の事故以来、一貫して「原子力発電に依存しない社会の実現」を目指してきました。私たちは、福島第一原子力発電所の事故により、ひとたび放射性物質の拡散が起これば、取り返しのつかない事態に陥ることを、改めて思い知らされました。そして、原子力発電の「安全神話」も「必要神話」も、経済を優先するあまり、人間が創り出した闇であったことを認めなくてはなりません。

今なお、福島第一原子力発電所の事故で多数の苦しんでおられる方がおられる中で、一旦停止した原子力発電所を再稼働する理由に、人のいのちよりも優先すべきことがあったのでしょうか。

ここに、真宗大谷派は、このたびの野田内閣総理大臣の大飯原子力発電所再稼働を表明されたことに対し、強く遺憾の意を表明いたします。あらためて大飯原子力発電所はもとより、他の原子力発電所も決して再稼働することのないように、念願するものであります。

二〇一二年六月十二日

真宗大谷派（東本願寺）

宗務総長 安原 晃